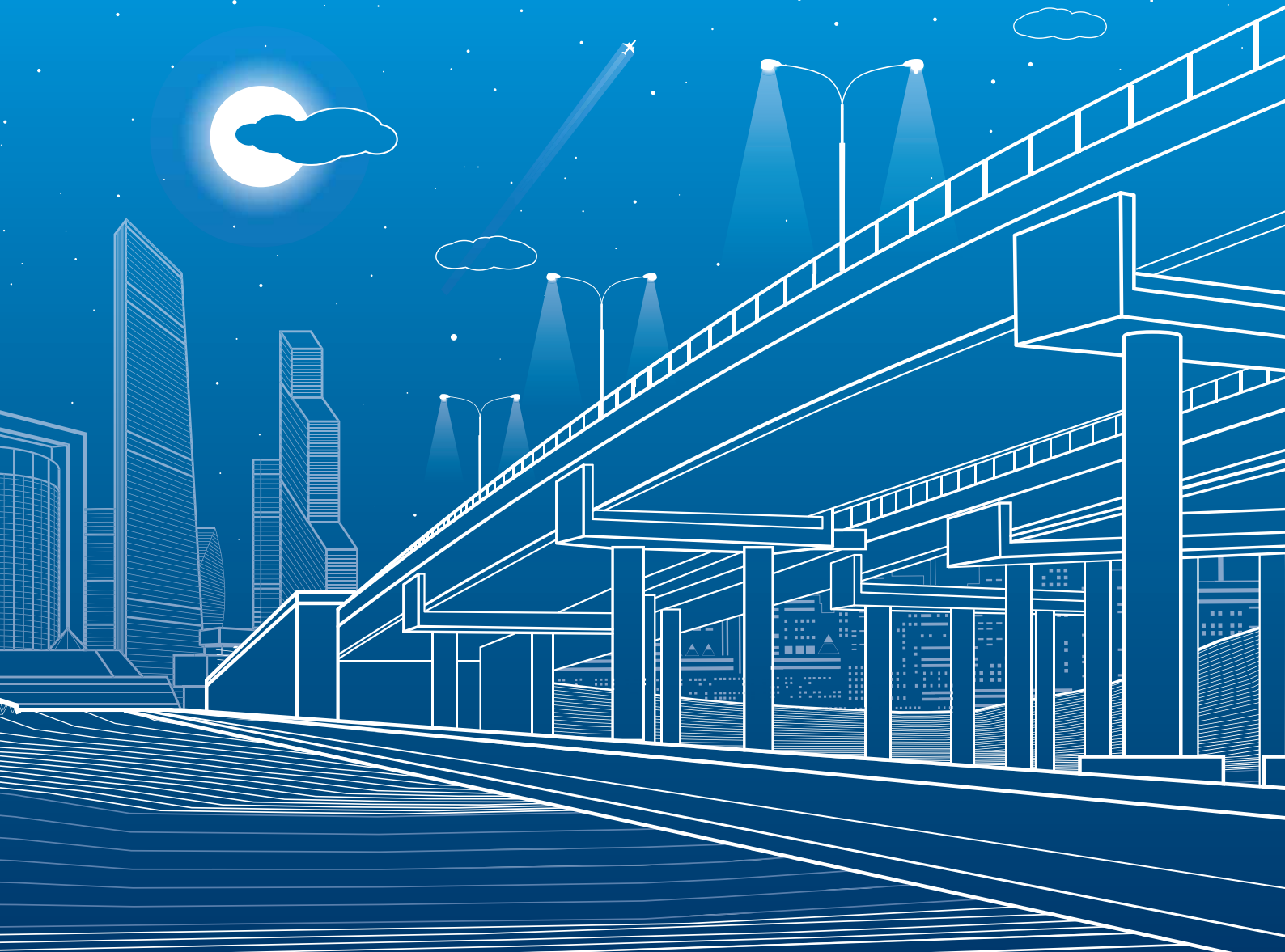




インフラメンテナンス国民会議
Japanese Congress for Infrastructure Management

ファクトブック
Fact Book

2018 - 2019

はじめに、

インフラは豊かな国民生活、社会基盤を支える基盤です。老朽化するインフラが急増するなかで、施設管理者は限られた予算のなかで対応しなければなりません。そのため、インフラメンテナンスを効率的、効果的に行う体制を確保する必要があります。

また、豊かな国民生活を送る上でインフラメンテナンスは国民一人ひとりにとって重要なものです。

そこで、インフラを良好な状態で持続的に活用するために、産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、インフラメンテナンスの理念の普及、課題の解決及びイノベーションの推進を図り、活力ある社会の維持に寄与することを目的に平成 28 年 11 月に「インフラメンテナンス国民会議」は設立しました。



目次

1. インフラメンテナンス国民会議について	01
－沿革	01
－活動の拡がり	02
－推進体制	03
2. 活動概要	06
－主要な活動	06
－地方フォーラムにおける活動	13
－実行委員会・部会等における活動	33

インフラメンテナンス国民会議の目的

- 1 革新的技術の発掘と社会実装
- 2 企業等の連携の促進
- 3 地方自治体への支援
- 4 インフラメンテナンスの理念の普及
- 5 インフラメンテナンスへの市民参画の推進

1

インフラメンテナンス国民会議について

1.1 沿革

平成 24 年 7 月 25 日	国土交通大臣から社会資本整備審議会会長及び交通政策審議会会長あて「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」の諮問
平成 24 年 7 月 31 日	第 9 回社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会（以下 技術部会）・社会資本メンテナンス戦略小委員会の設置
平成 24 年 12 月 2 日	中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故
平成 25 年 平成 25 年 1 月 21 日 平成 25 年 1 月 30 日	「社会資本メンテナンス元年」として位置付け 社会資本の老朽化対策会議 設置 社会資本メンテナンス戦略小委員会緊急提言 「本格的なメンテナンス時代に向けたインフラ政策の総合的な充実～キックオフ「メンテナンス政策元年」～」(大臣への手交)
平成 25 年 3 月 21 日	社会資本の老朽化対策会議 ・「社会資本の維持管理・更新について当面講ずべき措置」決定
平成 25 年 5 月 30 日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」中間答申（大臣への手交）
平成 25 年 10 月 4 日 平成 25 年 11 月 29 日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議 設置 インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議 ・「インフラ長寿命化基本計画」決定
平成 25 年 12 月 25 日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」答申
平成 26 年 5 月 21 日	社会資本の老朽化対策会議 ・「国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）」決定
平成 27 年 2 月 27 日	技術部会「社会資本のメンテナンス情報に関わる 3 つのミッションとその推進方策」提言 ・インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設置 等提言
平成 27 年 6 月 30 日	「日本再興戦略改訂 2015- 未来への投資・生産性革命 -」閣議決定 ・インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立 位置付け
平成 27 年 11 月 27 日 ～ 12 月 16 日	インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立に向けた意見交換会（第 1 回）の実施 ・約 80 の企業・団体から意見をヒアリング
平成 28 年 4 月 15 日 ～ 4 月 27 日	インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立に向けた意見交換会（第 2 回）の実施 ・国民会議の青写真をもとに約 70 の企業・団体と意見交換
平成 28 年 6 月 2 日	「日本再興戦略 2016- 第 4 次産業革命に向けて -」閣議決定 ・インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設置 位置付け
平成 28 年 7 月 29 日	政務官勉強会提言 ・「インフラメンテナンスの加速化」提言 ・インフラメンテナンス国民会議（仮称）の創設 位置付け
平成 28 年 6 月 2 日 ～ 9 月 29 日	インフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立に向けた準備会の実施 ・国民会議の運営に参加したい企業・団体と、具体的な組織や実施事項について検討開始 ・各種部会、フォーラム準備会により、検討内容、進め方等について議論（延べ 11 回開催）
平成 28 年 11 月 28 日	インフラメンテナンス国民会議設立
平成 29 年 7 月 24 日	平成 29 年度インフラメンテナンス国民会議総会 （第 1 回インフラメンテナンス大賞表彰式と同日開催）
平成 30 年 4 月 平成 30 年 8 月 9 日 平成 30 年 12 月 6 日	全国 10 地域で地方フォーラムが設立 （第 2 回インフラメンテナンス大賞表彰式） 平成 30 年度インフラメンテナンス国民会議総会 （社会インフラテック 2018 開会式と同日開催）

1.2 活動の拡がり

会員は、国民会議の趣旨に賛同して十分な意欲を持って活動に参加していただける企業、団体、行政機関(国を除く)又は個人による正会員とし、正会員については、入会の手続きを経て会員の資格を取得することとしています。

そのほか、国民会議運営のために会員の推薦によりご入会いただく特別会員や、活動以外の形態により国民会議に協力をいただく賛助会員があります。

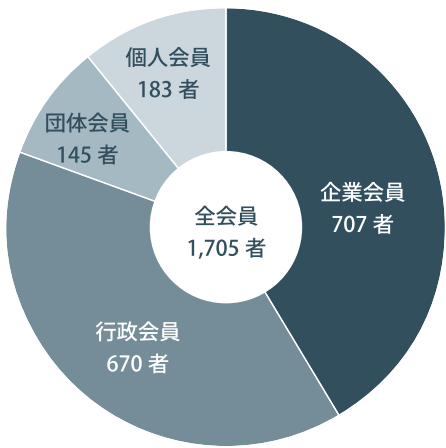


図 1-1：参加会員内訳（H31.3.26 時点）

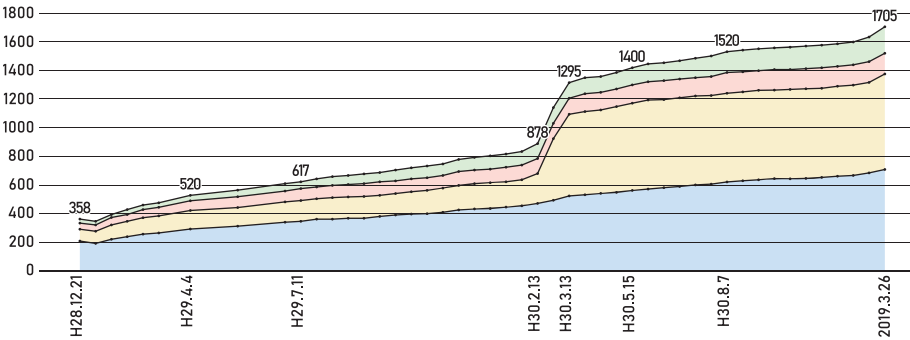


図 1-2：参加会員数の推移グラフ

表 1-1：参加会員内訳（H31.3.26 時点）

会員種別	設立時 (H28.11.28)	現在 (H31.3.26)	増加数
企業会員	95	707	612
行政会員	73	670	597
団体会員	27	145	118
個人会員	4	183	179
計	199	1,705	1,506

全国の 10 ブロックにおいて地方フォーラムを設置し、企業、団体、行政機関、又は個人による国民会議の会員の輪は、全国へ拡がりをみせています。

地方特有の課題を踏まえた特色ある取り組みも含め、精力的に地方での活動を進めています。

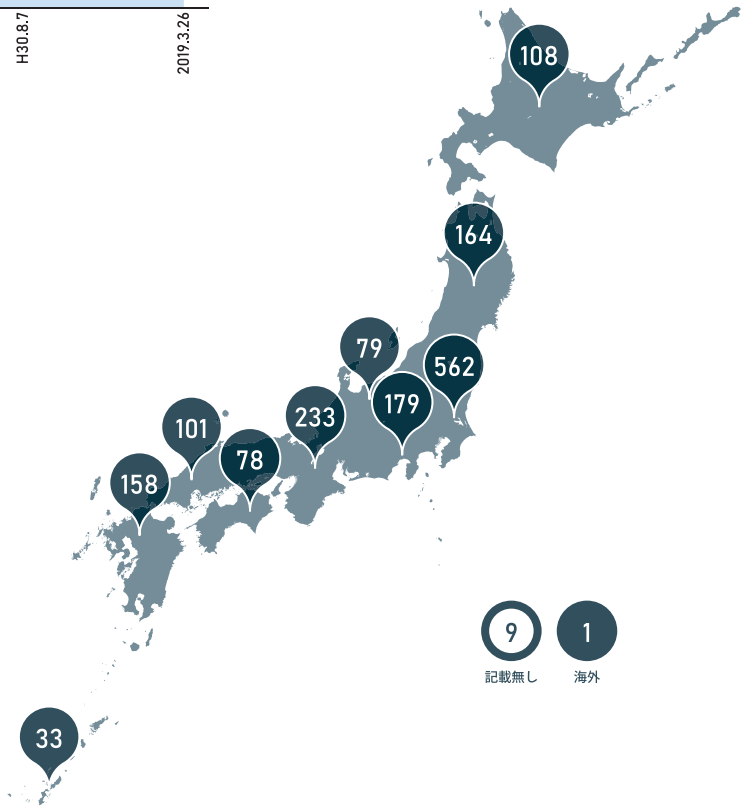


表 1-2：地方ブロック毎会員数内訳

会員種別	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	海外	記載無し	合計
行政会員数	56	65	137	25	94	117	39	38	83	16	0	0	670
企業会員数（本社ベース）	44	60	290	39	64	76	43	29	49	12	1	0	707
団体会員数（連絡先ベース）	2	18	62	9	10	17	6	6	11	4	0	0	145
個人会員数（連絡先ベース）	6	21	73	6	11	23	13	5	15	1	0	9	183
合計	108	164	562	79	179	233	101	78	158	33	1	9	1705

1.3 推進体制

国民会議の活動については、国民会議の趣旨に賛同し活動に意欲のある企業、研究機関、施設管理者、市民団体等の会員にメリットのある活動を会員の主体的な運営により行うこととし、会員により構成される実行委員会、各部会、各フォーラム企画委員会を設け、運営を行います。

会長



会長 富山 和彦
株式会社経営共創基盤
代表取締役 CEO

副会長



副会長 家田 仁
政策研究大学院大学 教授

革新的技術 フォーラム

オープンイノベーションによる異業種の連携や技術の融合、マッチング

リーダー

吉田 邦伸 国土交通省

企画委員

中根 達人 国土交通省
北川 順 国土交通省
福田 俊 国土交通省
岩佐 宏一 (公財)日本ファシリティマネジメント協会
大堀 正人 株式会社日立ソリューションズ
高山 保 株式会社インクリメントP
羽鳥 徹 富士ゼロックス株式会社
笹谷 達也 日鉄住金高炉セメント株式会社
秋本 雅司 株式会社島津製作所
中元 政人 能美防災株式会社
熊倉 信行 東芝インフラシステムズ株式会社
杉崎 光一 株式会社ビーエムシー
小沼 恵太郎 パシフィックコンサルタンツ株式会社
瀬崎 真一 株式会社日立製作所
横山 敦史 株式会社日立製作所
菅野 智行 株式会社日立製作所

自治体支援 フォーラム

自治体の課題解決、自治体のニーズ・民間企業等のノウハウの情報交換

リーダー

吉田 邦伸 国土交通省

企画委員

吉村 元吾 国土交通省
佐藤 靖浩 国土交通省
田中 優太 国土交通省
福田 隼登 国土交通省
森田 早紀 国土交通省

技術者育成 フォーラム

地域における技術者育成の活動を支援

リーダー

鈴木 泉 株式会社ガイアート

企画委員

渡邊 大介 株式会社ガイアート
岩佐 宏一 (公財)日本ファシリティマネジメント協会
足立 忠郎 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会
吉村 元吾 国土交通省
佐藤 靖浩 国土交通省
田中 優太 国土交通省
福田 隼登 国土交通省
森田 早紀 国土交通省

市民参画 フォーラム

インフラやメンテナンスへの関わりを深めるための実践活動を展開

リーダー

岩佐 宏一 (公財)日本ファシリティマネジメント協会

企画委員

有岡 正樹 シビルNPO連携プラットフォーム
世古 一穂 NPO研修・情報センター
鈴木 泉 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会
皆川 勝 東京都市大学
小林 大 大日本コンサルタント株式会社
駒田 智久 土木学会シビルNPO推進小委員会
比奈地 信雄 土木学会シビルNPO推進小委員会
三井 元子 あらかわ学会
足立 忠郎 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会

海外市場展開 フォーラム

海外への情報発信や海外展開案件形成

リーダー

三輪 準二 国土交通省
中村 祐司 株式会社アイ・エス・エスグループ
古澤 靖久 あずさ監査法人 (KPMG)
香川 将美 インデックスコンサルティング
大島 邦彦 株式会社熊谷組
橋詰 健 建設プロジェクト運営方式協議会
中川 均 (公財)日本ファシリティマネジメント協会
川村 正夫 (公財)日本ファシリティマネジメント協会
小沼 恵太郎 パシフィックコンサルタンツ株式会社
内藤 誠司 パシフィックコンサルタンツ株式会社
君島 誠司 株式会社フジタ
永瀬 恭一 株式会社フジタ

総 会

国民会議 会員（平成 31 年 3 月 26 日時点）

1,705 者（企業 707、行政 670、団体 145、個人 183）

実行委員会

国民会議全体の運営

■実行委員（平成 30 年 12 月 6 日～）

阿部 雅人 株式会社ビーエムシー
岩佐 宏一 公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会
大石 健二 パシフィックコンサルタンツ株式会社
大島 邦彦 株式会社熊谷組
大堀 正人 株式会社日立ソリューションズ
片岡 信之 一般社団法人国土政策研究会
川口 康介 新日鐵住金株式会社
熊倉 信行 東芝インフラシステムズ株式会社
小林 大 大日本コンサルタント株式会社
笹谷 達也 日鉄住金高炉セメント株式会社

島田 孝司 株式会社富士通交通・道路データサービス
鈴木 泉 株式会社ガイアート
高橋 千里 合同会社スマートウォーター
高山 保 インクリメント P 株式会社
田子 裕子 大日本印刷株式会社
田村 裕美 一般社団法人ソーシャルテクニカ
羽鳥 徹 富士ゼロックス株式会社
皆川 勝 東京都市大学
吉田 典明 日本工営株式会社

企画部会 | インフラメンテナンスに関する企画等

〈部会長〉

吉田 邦伸 国土交通省

〈幹 事〉

辻 誠治 国土交通省

吉田 典明 日本工営株式会社

〈部会委員〉

阿部 雅人 株式会社ビーエムシー

小林 大 大日本コンサルタント株式会社

島田 孝司 株式会社富士通交通・道路データサービス

鈴木 泉 株式会社ガイアート

高橋 千里 合同会社スマートウォーター

広報部会 | インフラメンテナンスの理念普及、国民会議の広報

〈部会長〉

小林 大 大日本コンサルタント株式会社

〈幹 事〉

田子 裕子 大日本印刷株式会社

〈部会委員〉

高橋 至 国土交通省

土田 智 株式会社福山コンサルタント

那珂 通大 ニチレキ株式会社

永田 善裕 福美建設株式会社

福田 隼登 国土交通省

森田 早紀 国土交通省

横山 隼佑 日本工営株式会社

北海道 フォーラム

リーダー
横田 弘

北海道大学大学院工学研究院

東北 フォーラム

リーダー
石川 雅美

東北学院大学

関東 地方フォーラム

リーダー
村越 潤

首都大学東京

北陸 インフラメンテナンス フォーラム

リーダー
丸山 久一

長岡技術科学大学

中部 フォーラム

リーダー
原田 和樹

玉野総合コンサルタント株式会社

近畿 本部フォーラム

リーダー
片岡 信之

（一社）国土政策研究会

「ちゅうごく」 (中国フォーラム)

リーダー
藤井 堅

広島大学

四国 地方フォーラム

リーダー
矢田部 龍一

愛媛大学

九州 フォーラム

リーダー
日野 伸一

大分工業高等専門学校

沖縄 フォーラム

リーダー
有住 康則

琉球大学

国（国土交通省および関係省庁）

インフラメンテナンス国民会議 事務局

各地方フォーラム企画委員の紹介

北海道フォーラム

栗田 悟 企画委員長／(一社)北海道建設業協会
岡本 淳敏 勇建設(株)
北見 実敏 伊藤組土建(株)
河村 巧 岩田地崎建設(株)
小野 雅晴 (株)エスイーシー
船山 建次 (株)開発工営社
池田 憲二 (株)構研エンジニアリング
伊藤 捨雄 コンクリート・鋼構造物超耐久化工法研究会
中里 修二 サンエスホールディングスグループ
尾門 あいり 積水ハウス(株)
佐々木 雅史 (株)ダイヤコンサルタント
鈴木 誠史 (株)ティーネットジャパン
向井 直樹 (株)ドーコン
阿部 幸康 (株)土木技術コンサルタント
大石 学 (株)中山組
高橋 守人 西江建設(株)
小山 教 西松建設(株)
市川 浩 ニチレキ(株)
沼田 寛 (株)ノース技研
沖 岳大 北電総合設計(株)
南 真樹 (株)南組
● オブザーバー
大堀 正人 (株)日立ソリューションズ
高橋 千里 合同会社スマートウォーター

東北フォーラム

小野 泰太郎 (株)小野建築研究所
小野 晃良 (株)小野工業所
加納 実 鹿島建設(株)
新銀 武 (株)中央コーポレーション
赤羽 修 ニチレキ(株)
林 昭宏 株式会社フジタ
遠藤 敏雄 (株)復建技術コンサルタント
山口 恒太 パシフィックコンサルタンツ株式会社
● オブザーバー
阿部 雅人 (株)ピーエムシー
島田 孝司 (株)富士通交通・道路データサービス
大石 健二 パシフィックコンサルタンツ(株)
高橋 千里 合同会社スマートウォーター

関東地方フォーラム

平野 圭 (株)クリエート
柳澤正和 (株)赤城商会
高瀬 和男 オムロンソーシアルソリューションズ(株)
野口 智之 前田建設工業(株)
江藤 靖彦 前田建設工業(株)
五十嵐 則夫 株式会社フジタ
鈴木 健彦 八千代エンジニアリング(株)
金盛 隆 ニチレキ(株)
高橋 千里 合同会社スマートウォーター
小林 大 大日本コンサルタント(株)
平賀 典生 富士通株式会社
戸村 智恵 日本マネジメント総合研究所合同会社
黒木 幹 (株)福山コンサルタント
春山 俊仁 (株)福山コンサルタント
木下 史朗 木下建工(株)
● オブザーバー
高山 保 インクリメントP(株)
田子 裕子 大日本印刷(株)
羽鳥 徹 富士ゼロックス(株)

北陸インフラメンテナンスフォーラム

嶋田 浩一 (株)熊谷組
川島 明 ニチレキ(株)
若尾 明弘 エヌシーイー(株)
湯川 雅昭 三和ボーリング(株)
木下 史朗 木下建工(株)
小林 徹 株式会社レックス
田村 康裕 開発技建(株)
渡邊 浩匡 西松建設(株)
初鹿 明 大日本コンサルタント
笹谷 輝彦 (株)国土開発センター
浦田 孔二 (株)日本海コンサルタント
● オブザーバー
大島 邦彦 (株)熊谷組
鈴木 泉 (株)ガイアート
熊倉 信行 東芝インフラシステムズ(株)

中部フォーラム

細江 育男 大日コンサルタント(株)
白井 秀典 青山建設(株)
川合 茂道 青山建設(株)
安藤 誠 (株)オリエンタルコンサルタンツ
安立 博 (株)オリエンタルコンサルタンツ
宮之上 昭彦 大日コンサルタント(株)
野々村 敏博 大日コンサルタント(株)
榮 義彦 玉野総合コンサルタント(株)
鈴木 正樹 中央コンサルタンツ(株)
東山 泰治 中央コンサルタンツ(株)
中井 智巳 戸田建設(株)
関口 高志 土木エンジニアリング部 技術2課
渡邊 豊 ニチレキ(株)
神田 伸行 ニチレキ(株)
吉田 典明 日本工営(株)
橋爪 信昭 (株)フジヤマ
海野 剛司(株)フジヤマ
青島 健 (株)フジヤマ
永富 大亮 八千代エンジニアリング(株)
中川 義守 八千代エンジニアリング(株)
● オブザーバー
吉田 典明 日本工営(株)
川口 康介 新日鐵住金(株)

近畿本部フォーラム

霜上 民夫 (一社)国土政策研究会
山内 幸裕 (一社)国土政策研究会
林田 充弘 (一社)国土政策研究会
梯 優次 (一社)国土政策研究会
村上 琢也 (一社)国土政策研究会
杉山 信也 (一社)国土政策研究会
鷹取 利昌 (一社)国土政策研究会
小谷 義博 (一社)国土政策研究会
横山 輝正 (一社)国土政策研究会
山下 正章 (一社)国土政策研究会
● オブザーバー
羽鳥 徹 富士ゼロックス(株)

「ちゅうごく」(中国フォーラム)

藤井 友行 復建調査設計(株)
中山 東太 (株)ウッドプラスチックテクノロジー
岩村 誠治 (株)営善
狩屋 雅之 岡山県立岡山工業高等学校
林 一則 (株)ガイアート中国支店
紀 淳 (株)熊谷組

高橋 千里 合同会社スマートウォーター
清水 祐介 富士通(株)
廣田 和道 戸田建設(株)
若木 和雄 日進工業(株)
奥村 享作 (株)フジタ
丹羽 健介 (株)Roope's
● オブザーバー
鈴木 泉 (株)ガイアート
島田 孝司 (株)富士通交通・道路データサービス

四国地方フォーラム

庵原 伸二 (一社)四国クリエイイト協会
山崎 秀幸 (株)四電技術コンサルタント
福田 茂 四国建設コンサルタント(株)
大野 二郎 (株)芙蓉コンサルタント
楠本 雅博 (株)第一コンサルタンツ
谷本 悦久 徳島県
廣瀬 治 香川県
金盛 隆 ニチレキ(株)
葛原 健二 愛媛県
弘嶋 浩明 高知県
● オブザーバー
大島 邦彦 (株)熊谷組
笹谷 達也 日鉄住金高炉セメント(株)
島田 孝司 (株)富士通交通・道路データサービス

九州フォーラム

園田 佳巨 九州大学
松田 浩 長崎大学
赤星 文生 (一社)九州地域づくり協会
福島 宏治 (一社)建設コンサルタンツ協会九州支部
濱村 哲之進 アース建設コンサルタント(株)
岩 慎二郎 (株)麻生
牧角 龍憲 (一社)NME 研究所
花岡 信一 前田建設工業(株)
永田 武久 戸田建設(株)
小野寺 陵太郎 ニチレキ(株)
野上 和彦 (株)福山コンサルタント
園田 康行 (一社)日本建設業連合会九州支部
山川 武春 大日本コンサルタント(株)九州支社
川神 雅秀 (一社)九州建設技術管理協会
渡邊 泰幸 西松建設(株)九州支社
高山 淳一 (一社)リペア会
片山 英資 (一社)ツタワルドボク
今井 良則 応用地質(株)
田頭 正臣 宮地エンジニアリング(株)
● オブザーバー
島田 孝司 (株)富士通交通・道路データサービス
鈴木 泉 (株)ガイアート
笹谷 達也 日鉄住金高炉セメント(株)

沖縄フォーラム

下里 哲弘 琉球大学
神村 美州 (一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会
轟 彰雄 西日本高速道路(株) 沖縄高速道路事務所
金城 博 (一社)沖縄しまたて協会
伊集 朝徳 (一社)日本道路建設業協会 沖縄支部
上運天 先一 沖縄県
新里 匠 (一財)沖縄県建設技術センタ
● オブザーバー
岩佐 宏一 (公社)日本ファシリティマネジメント
田村 裕美 (一社)ソーシャルテクニカ

2 活動概要

インフラメンテナンス国民会議は、我が国のすべてのインフラメンテナンスの円滑な実施を目標とし、それを支援するために必要な産学官民のプラットフォームを運営するとともに、インフラメンテナンスの円滑な実現に向け必要な事業を行っています。

2.1 主要な活動

2.1.1

平成 30 年度 インフラメンテナンス国民会議総会

(社会インフラテック 2018 開会式典内開催)



未来価値を考え、ビジネスとして回していく——
それが社会の持続性につながっていく。

富山 和彦 インフラメンテナンス国民会議 会長挨拶より

インフラの問題は非常に深刻な問題です。一方で非常に難しいのは、時間軸が大変長いことから、それをどう今日のビジネスにするかということになります。過去は問題視してきませんでしたが、そのようなことを言っていられないところまで、日本がきています。このような問題意識でインフラメンテナンス国民会議という名称に、「国民会議」と入れたのは、この問題を国民的なムーブメントにしないといけないという想いを込めたことによります。そのインフラメンテナンス国民会議も、当初の思いよりはだいぶ盛り上がっています。総会には、たくさんの方々が参加し、驚きと同時に、嬉しくもある状況です。

最近、SDGs が話題になっていますが、従来の資本主義、ファイナンスの世界においては、すべてを現在価値で計ろうとします。すべてを取引する現在価値で計ろうとします。ところが、20年後のキャッシュフローは、現在価値に換算すると「0」になりま

す。現在価値の物の考え方というのは、30年後40年後には責任を持たないという考え方になります。これは計算式の構造上、このような答えになるものです。しかし、社会は50年後、100年後も続いていきます。子供や孫の時代に繋がっていきます。我々、昭和世代が将来の責任を負っています。現在価値に対応する未来価値を真剣に考え、今の世代がビジネスとして回していくことが、社会

の持続性につながっていくこととなります。

インフラメンテナンス国民会議のムーブメントをさらに広げて、国民の皆さまの意識に浸透させていくことが重要です。また、総会に出席いただいている皆さんが伝道師となり、これからインフラメンテナンスのムーブメントをより多くの方々へ、広げていくような活動をしていただくことを希望します。

開催概要

日 時：平成 30 年 12 月 6 日(木)
場 所：東京ビッグサイト 東 1 ホール
プログラム：開会、主催者挨拶、祝辞、後援団体紹介、登壇者紹介
テーブルカット、国民会議総会、三木先生基調講演
登壇者：国土交通大臣政務官 工藤 彰三
日本経済新聞社株式会社 小松 潔
株式会社経営共創基盤 富山 和彦
(インフラメンテナンス国民会議会長)
政策研究大学院大学教授 家田 仁
(インフラメンテナンス国民会議副会長／
社会インフラテック 2018 実行委員会委員長)
東京都市大学学長 三木 千壽
(社会インフラテック 2018 実行委員会顧問)
東洋大学教授 渡邊 朗子
(社会インフラテック 2018 実行委員会委員長代理)

2.1.2

社会インフラテック 2018

平成 30 年 12 月 6 日 (木) に、「社会インフラテック 2018」を東京ビッグサイトにて開催しました。

開会式では、日本経済新聞社とインフラメンテナンス国民会議の両主催者代表(小松氏、富山会長)による挨拶、工藤国土交通大臣政務官による祝辞、三木実行委員会顧問による基調講演「インフラの臨床成人学入門」が行われました。



開催概要

日 時：平成 30 年 12 月 6 日 (木)
 場 所：東京ビッグサイト 東 1 ホール
 プログラム：開会、主催者挨拶、祝辞、後援団体紹介、登壇者紹介
 テープカット、国民会議総会、三木先生基調講演
 登 壇 者：国土交通大臣政務官 工藤 彰三
 日本経済新聞社株式会社 小松 潔
 株式会社経営共創基盤 富山 和彦
 (インフラメンテナンス国民会議会長)
 政策研究大学院大学教授 家田 仁
 (インフラメンテナンス国民会議副会長／
 社会インフラテック 2018 実行委員会委員長)
 東京都市大学学長 三木 千壽
 (社会インフラテック 2018 実行委員会顧問)
 東洋大学教授 渡邊 朗子
 (社会インフラテック 2018 実行委員会委員長代理)



4



5



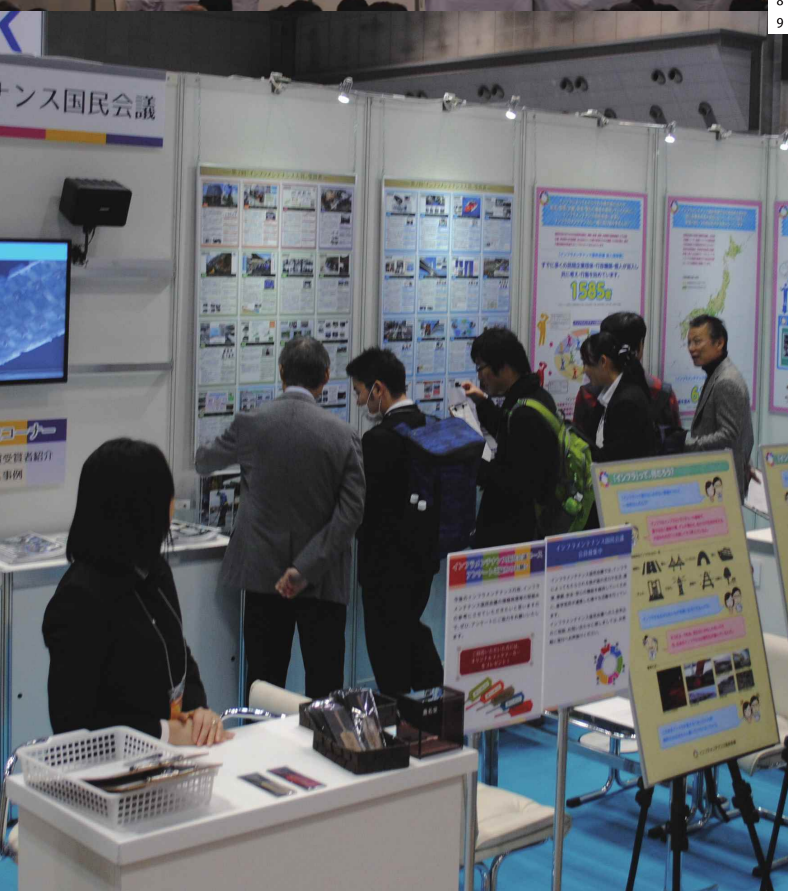
6



7



8



9



10

[写真]

1_ 社会インフラテック開会式におけるテープカットの様子 2_ 工藤国土交通大臣政務官による祝辞 3_ 三木先生による基調講演 4_ 青森県 総務部行政経営管理課 駒井 裕民氏による取り組み紹介 5_ NJS 開発本部ドローン開発部部長稲垣 裕亮氏による取り組み紹介 6_ 日本大学工学部 土木工学科研究員 浅野 和香奈氏による取り組み紹介 7_ 東洋大学 情報連携学部 坂村 健氏による講演 8_ パネルディスカッションの様子 9_ 会場内のブース展示の様子 10_ 石井啓一国土交通大臣による視察

2.1.3

近畿フォーラム 2018

「近畿フォーラム 2018」は、近畿地方を中心とした施設管理者と企業の技術マッチングを促進する目的で、フォーラム・ピッチイベント・実証実験などとあわせて行う企業等による技術展示会です。

各社出展ブースをはじめ、各種イベントや取り組み発表、ピッチイベント、特別講演などを行いました。また、お子様向けとして、重機展示も実施しました。

【写真】

1・2_ フォーラムの様子

3_ 関西大学 坂野 昌弘 教授による総評



開催概要

日 時：平成 30 年 8 月 24 日 (金) 13:30 ～ 16:15

場 所：花博記念公園鶴見緑地

ハナミズキホール 水の館ホール附属展示場

参加者：地方自治体：13 名 (京都府・奈良県・大阪府・十津川村)

民間企業等：40 名 (27 社)

事 務 局 等：15 名 (国土政策研究会 関西支部)

国土交通省：5 名 (近畿地方整備局、中国地方整備局)

メンター：1 名 (近畿情報ワーキング長)

出席者 合計 74 名

テーマ：施設管理者が抱える維持管理の課題 (5 テーマ) について
班別討議が行われた。

①海上に漂着したゴミの測量技術

②人道吊り橋の効率的な補修技術・長寿命化技術

③橋梁、ダム等、足場の設置が困難な箇所の目視点検を支援する技術

④異常気象時に道路法面等の安全性や被災状況を把握する技術

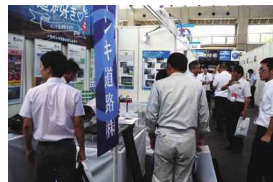
⑤道路土工構造物の目視点検を支援する安価で効率的な点検技術

近畿情報ワーキング長：坂野 昌弘 関西大学教授の総評

状況を把握する技術には、ドローンや人工衛星を活用する技術が中心となり、人工衛星の観測・解析により材質そのものについても識別可能な技術が必要になってくるのではないかと感じました。

また、点検技術だけでなく、点検の準備段階で実施する技術や道具が新たに必要となることや、新材料を積極的に活用し補修する提案など、これからのピッチイベントや実証実験につながる議論がなされました。

メンテナンスビジネスは、将来にわたって継続して必要となるものです。メンテナンスビジネスの益々の発展が、地方の雇用や地域の活性化、また、安心・安全で明るい社会に繋がることに期待します。



▲ 民間企業等の最新技術を展示(53団体)



▲ 建設機械等の展示(7団体)

インフラメンテナンス 国民会議

近畿フォーラム2018 **入場無料**

平成30年
日時 **8.23(木)** 9:30~17:00 / **24(金)** 9:30~17:00
【意見交換会】16:30~

イベントのご案内 カンファレンスルームで開催

1日目 8月23日(木) 開場 9:30~	
10:00~ 開会宣言 インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 実行委員長 一般社団法人 国土政策研究会 理事 兼 関西支部長 霜上 民生 氏	11:10~ 特別講演: 「日本のインフラの現状と今後の課題」 一般社団法人 国土政策研究会 会長 元(国土交通省 近畿地方整備局長/参議院議員/自民党参議院議員幹事長) 脇 雅史 氏
10:05~ 共催者挨拶 関西大学 総合情報学部 (SIPインフラ地域実装支援チーム) 古田 均 教授	11:40~ 近畿圏の施設管理者のニーズ説明発表 国土交通省 近畿地方整備局 企画部事業調整官(予定)
10:10~ 来賓挨拶 ・国土交通省 総合政策局 技術参事官(予定) ・国土交通省 近畿地方整備局 局長(予定) SIP インフラ維持管理・更新・マネジメント技術 プログラムディレクター 横河国立大学 先端科学高等研究院 上席特別教授 藤野 剛三 氏	12:00~ 休憩
10:30~ テープカット 10:40~ 国土交通省 総合政策局からインフラメンテナンス国民会議の取組発表 国土交通省 総合政策局 事業総括調整官(予定)	12:30~ インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム実証実験報告会(予定) 17年度テーマの実証実験報告会
10:50~ SIP本部からインフラの取組発表 SIP インフラ維持管理・更新・マネジメント技術 プログラムディレクター 横河国立大学 先端科学高等研究院 上席特別教授 藤野 剛三 氏	13:45~ 第3回インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム・ピッチイベント (ジャンル毎/テーマ毎)
	15:45~ 実証実験及び第3回ピッチイベントの総括 関西大学 環境都市工学部 (近畿本部 情報ワーキング長) 坂野 昌弘 教授
	16:30~ 屋外イベント(飲食スペースで開催) (来賓・主催者・共催者・後援者・出展者・見学者意見交換会) 事前申し込み(有料)となります。当日空席があれば受付可能ですが定員になり次第締め切らせていただきます。
	17:30 終了

2日目 8月24日(金) 開場 9:30~	
10:00~ 関西大学(SIPインフラ地域実装支援チーム)の取組発表 関西・広島地域のインフラ維持管理の枠組みと新技術の実証実験 関西大学 総合情報学部 (SIPインフラ地域実装支援チーム) 古田 均 教授	12:00~ 休憩
10:30~ SIP近畿実装チームから個別のテーマ毎の成果発表会 関西地域におけるSIP開発技術の社会実装実験 ・大阪府におけるSIP技術の実装実験 石川 敏之 准教授(関西大学) ・兵庫県におけるSIP技術の実装実験 船田 征氏氏(ナノ・テクノロジーセンター) ・奈良県におけるSIP技術の実装実験 鶴田 浩章 教授(関西大学) e-ラーニングシステムとAIの応用 広瀬 道幸 教授(関西大学)	13:30~ 第6回インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 施設管理者ニーズ毎の討議会
	16:00~ 第6回インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラムの総括 関西大学 環境都市工学部 (近畿本部 情報ワーキング長) 坂野 昌弘 教授



インフラメンテナンス国民会議は、インフラを良好な状態で持続的に活用するために産官学が一体となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、様々な主体が参画し、理念の追求、課題の解決およびイノベーションの推進を図る産官学民のプラットフォームです。本組織は、活力ある社会の維持に寄与することを目的とし、国土交通省及び関係省庁が支援しています。



土木学会 継続教育(CPD)プログラム認定 (USCE18-0533単位 数8.0)を受けています

国土強靱化
NATURAL RESILIENCE
国として、災害や危機に備える

インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム2018は国土強靱化を支援しております

〈主催〉	〈共催〉	〈後援〉
インフラメンテナンス国民会議	一般社団法人 国土政策研究会 関西支部 インフラメンテナンス国民会議 近畿本部 関西大学 (SIPインフラ地域実装支援チーム)	国土交通省 日刊建設工業新聞社 SIP 戦略型インフラビジョン創出プログラム インフラ維持管理・更新・マネジメント技術

場所 花博記念公園鶴見緑地 ハナミズキホール(水の館ホール付属展示場)

大阪市鶴見区鶴見緑地公園2-163 地下鉄長堀鶴見緑地線「鶴見緑地駅」下車

お問合せ インフラメンテナンス国民会議 近畿本部 事務局
(一般社団法人国土政策研究会 関西支部事務局 担当窓口 橋本・片岡)
TEL 06-6110-7168



案内チラシ

2.1.4

インフラメンテナンス大賞

インフラメンテナンス大賞とは、日本国内のインフラのメンテナンスに係る優れた取り組みや技術開発を表彰し、ベストプラクティスとして広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取り組みを促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図るため、実施するものです。

【写真】

1_ 表彰式の様子 2_ 石井啓一国土交通大臣による祝辞 3_ 山極壽一選考委員長による講演



開催概要

日 時：平成 30 年 8 月 9 日（木）14:00 ～ 16:00
 場 所：中央合同庁舎 2 号館地下 2 階講堂
 主 催：国交省、総務省、文科省、厚労省、農水省、防衛省
 議 事：国土交通大臣祝辞
 登壇者紹介
 インフラメンテナンス大賞概要説明
 各省大臣賞授与
 特別賞・優秀賞授与
 選考委員会委員長講評（「ゴリラからの警告」）
 国民会議副会長からのメッセージ
 第 3 回大賞説明
 出席者：約 350 名
 委員長 京都大学 総長／日本学術会議 会長 山極 壽一
 副会長 政策研究大学院大学 教授 家田 仁
 <主務省庁代表>
 国土交通大臣 石井 啓一
 農林水産副大臣 谷合 正明
 総務審議官 鈴木 茂樹
 厚生労働省審議官 宮崎 雅則
 ・都道府県 政令市：14 名
 ・関係省庁：56 名
 ・大賞受賞者：131 名
 ・受賞者関係者：95 名
 ・国民議会議員：25 名
 ・マスコミ：19 名

第2回「インフラメンテナンス大賞」受賞者

省	賞	No.	応募部門	代表団体名
			技術開発名	
総務省	大臣賞	1	ウ 技術開発部門 メタルケーブル設備管理手法確立および計画的設備補修による保全稼働削減	株式会社NTT東日本ー南関東
		2	ウ 技術開発部門 IoTを活用したオープン型遠隔監視システム構築による広域的水道施設の運転維持管理	松江市上下水道局
	情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞			
文部科学省	特別賞	1	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 名古屋市学校施設リフレッシュプランに基づく施設の長寿命化への取り組み	名古屋市教育委員会
厚生労働省	大臣賞	1	ウ 技術開発部門 不断水で設置可能な継手部補強金具による既設管の地震対策	大成機工株式会社
農林水産省	大臣賞	1	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 林道白山線における冬季閉鎖期間の維持管理方法における工夫	石川県農林水産部森林管理課
		2	イ メンテナンスを支える活動部門 農業者と漁業者との連携によるため池の保全	淡路東浦ため池♡里海交流保全協議会
	特別賞	3	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 水中ポンプの水冷装置に詰まったゴミや泥を完全かつ容易に除去する工夫	石巻市北方土地改良区
		4	イ メンテナンスを支える活動部門 地域で支える「ふれあい林道サポート事業」	飯田市上郷野底山財産区
		5	ウ 技術開発部門 「プレキャストコンクリート製残置型枠工法」による漁港施設の長寿命化対策	漁港プレキャスト工法研究会
	優秀賞	6	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 メンテナンスフリーでシカ害等から林道 緑化法面を守る簡易木製品工法	愛媛県農林水産部林業政策課
		7	イ メンテナンスを支える活動部門 地域活動による治山施設の維持管理と森の強靱化	諏訪形区を災害から守る委員会
		8	イ メンテナンスを支える活動部門 地元農業高校の高校生と連携した農業用水路の保全活動	美野原農地・水環境保全会
		9	イ メンテナンスを支える活動部門 地域住民や地元企業が参画するアドプト活動による農業用水路等の保全管理	岩手県
国土交通省	大臣賞	1	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 県有施設の保有総量縮小・効率的利用・長寿命化の推進 ～次世代への価値ある施設の継承のために～	青森県
		2	イ メンテナンスを支える活動部門 みんなで守ろう。「橋のセルフメンテナンスふくしまモデル」の構築と実践	日本大学大学院工学研究科
		3	ウ 技術開発部門 営業車に搭載可能な軌道検測装置の開発と実用化	公益財団法人鉄道総合技術研究所
	特別賞	4	ウ 技術開発部門 下水道管路等の閉鎖性空間点検調査用ドローンに係る開発	株式会社 NJS
		5	ウ 技術開発部門 点検用窓「GENSO」を用いたポンプ診断技術	クボタ機工株式会社
		6	ウ 技術開発部門 無線 LAN ポートを用いた港湾構造物の点検診断システム	五洋建設株式会社
	優秀賞	7	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 山陽新幹線コンクリート構造物の実証的な維持管理の取り組み	西日本旅客鉄道株式会社
		8	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 港湾荷役機械の劣化故障の減少のための数値管理手法	博多港ふ頭株式会社
		9	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 小名浜マリブリッジ『点検マニュアル』の策定と地域技術者との連携体制構築 ～使い始める前に考える～	小名浜港東港地区臨港道路維持管理技術検討委員会
		10	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 明治期に建造された鋼製灯台への長期耐久性防食仕様への適用	日鉄住金防蝕株式会社
		11	イ メンテナンスを支える活動部門 復興事業により整備された公園を官民協働で維持管理する持続可能な仕組みの構築	野田村
		12	ウ 技術開発部門 植物の特性を利用した防草技術(防草ブロック・エレファントレン)	全国防草ブロック工業会
		13	ウ 技術開発部門 さびの「診断」と反応性塗料の「処方」による鉄鋼インフラの長寿命化技術の開発	株式会社京都マテリアルズ・長瀬産業株式会社
		14	ウ 技術開発部門 Dimplef	ゴトウコンクリート株式会社
		15	ウ 技術開発部門 ヒートライナー工法 (小口径下水道管路を補修しながら熱を利用する技術)	東亜グラウト工業株式会社
		16	ウ 技術開発部門 土木構造物の状態監視を低コスト・省メンテナンスで実施可能な計測装置の開発	東海旅客鉄道株式会社 総合技術本部技術開発部
		17	ウ 技術開発部門 深梁工法 ―杭連結による簡便な棧橋補強―	JFE エンジニアリング株式会社
		18	ウ 技術開発部門 画像解析を用いたコンクリート構造物のひび割れ点検技術の開発	大成建設株式会社
防衛省	優秀賞	1	ア メンテナンス実施現場における工夫部門 既設地中式タンクを利用した、地下式燃料タンクの築造	五洋建設株式会社

2.2 地方フォーラムにおける活動

2.2.1

北海道フォーラム

平成 30 年 3 月 23 日に設立し、北海道内の地方公共団体が管理する土木施設・公共施設の適切なメンテナンスを継続していくため、産学官民の技術や知恵を総動員するプラットフォームとして、活動してまいります。



リーダー 横田 弘

北海道大学大学院工学研究院 教授

北海道

01

北海道フォーラム 第2回準備会

北海道開発局では、メンテナンス分野に関心のある企業・団体を中心とした、北海道の地方公共団体におけるインフラメンテナンスの課題解決の後押し等に取り組む、「インフラメンテナンス国民会議 北海道フォーラム」を設立するための準備を進め、現時点で想定されるテーマ別に、グループ討議を行いました。

運営メンバーに加え、北海道内の地方公共団体の実務担当者も参加。フォーラムの設立に向け、今後の進め方のアイデアや取り組むべき検討課題を抽出しました。

<日時・場所>

平成 30 年 1 月 15 日(月) 北海道開発局



▲ 第2回準備会の様子

北海道

02

北海道フォーラム 設立記念講演会

道内 10 の自治体職員(官)と北海道フォーラム企画委員(産)、S I Pグループ(学)の総勢約 80 名が、それぞれ 5 つのテーマ(道路構造物、その他構造物、舗装、公共施設・住宅、自治体支援)について、「管理上の課題」や「民間の技術に対するニーズ」を探りました。また、新しい技術の社会実装についても、詳細の内容を確認など、現場試行のマッチングに向けて、意見交換をしました。

<日時・場所>

平成 30 年 8 月 22 日(水) 北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟 2 階

<参 加 者>

約 200 名(自治体職員約 30 名、一般企業・団体約 170 名、報道機関 5 社)

<プログラム>

- ▶ 基調講演：メンテナンス技術の実装に向けた北海道フォーラムへの期待
- ▶ 活動報告 ①SIP 地域実装に向けた取り組み
- ②モバイルプロフィロメータによる路面点検の地域実装と今後の展開
- ③インフラメンテナンス国民会議北海道フォーラムについてグループディス カッション



▲ 基調講演の様子

北海道

03

北見工業大学 × 北海道フォーラム

『モバイルプロフィロメータによる路面点検の効率化を目指した革新的技術の現場試行』を開催しました。「MPMデモンストレーション」や「社会実装に向けたグループ討議」を実施して、道路路面点検の効率化を意見交換しました。また、北海道フォーラム企画委員(産)北海道開発局、地方公共団体(官)北見工業大学(学)の約20名での意見交換を実施しました。

<日時・場所>

平成30年10月25日(木) 千歳アルカディア・プラザ1階多目的ホール

<参加者>

約60名(自治体・道路管理者約20名、一般企業等約40名、報道機関3社)

<プログラム>

- ▶ 講演
- ▶ デモンストレーション／グループ討議など



▲ 意見交換の様子

北海道

04

S I P 北海道地域実装研究グループ × 北海道フォーラム

「公的賃貸住宅における民間企業のノウハウを活かした更新・建替の将来ビジョン」を開催しました。地方自治体と民間事業者間との意見交換を重ねる「きっかけ」を作り、互いの協力関係構築やメンテナンスに関する機運熟成の下地作りを図りました。

<日時・場所>

平成30年11月21日(水) 北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟

<参加者>

約110名(自治体19団体27名、一般企業等約80名、報道機関3社)

<プログラム>

- ▶ 講演・講話
- ▶ 民間事業者によるプレゼンテーション
- ▶ 座談会(意見交換会)



▲ プレゼンテーションの様子

北海道

05

インフラメンテナンスにおける衛星データ利用について

衛星搭載合成開口レーダによるインフラモニタリングや防災・インフラ維持管理のための高分解能衛星データの利用、インフラ維持管理・防災分野における衛星データ利用ビジネスの創出、リモートセンシング技術を活用した堤防管理の高度化・効率化に関する技術開発、衛星リモートセンシングの防災分野の実績と実利用への試みなどについての講演が行われました。

<日時・場所>

平成30年11月27日(火) かでる 2.71060 会議室

<参加者>

約100名(企業・団体等約70名、行政機関約20名、研究機関5名、報道機関5社)

<プログラム>

- ▶ 講演



▲ 講演の様子

北海道

06 北海道フォーラム in 帯広

～S I P地域実装による地方のインフラ・アセットマネジメントを考える～

「S I P地域実装チームの活動実績と地域との共生」についての講演と、「社会インフラ維持管理の課題とマネジメント」や「モバイルプロフィロメータを利用した路面点検」、「2輪型マルチコプタによる橋梁点検」「地域が自ら支える水インフラ維持管理」についての研究活動報告が行われました。

<日時・場所>

平成31年1月31日(木) 14:00～17:30 北海道新聞帯広支社大会議室

<参加者>

約80名

<プログラム>

- ▶開会挨拶
- ▶講演
- ▶閉会挨拶



▲北見工業大学 教授 三上 修一氏による講演

北海道

07 北海道フォーラム in 函館

～S I P地域実装による地方のインフラ・アセットマネジメントを考える～

「S I P地域実装に向けた取り組み」についての講演と、「モバイルプロフィロメータを利用した路面点検」や「2輪型マルチコプタを用いた橋梁点検支援ロボットシステムの研究開発」についてのパネルディスカッションが行われました。

<日時・場所>

平成31年2月23日(土) 13:20～17:00 函館国際ホテル

<参加者>

約80名

<プログラム>

- ▶開会挨拶
- ▶講演
- ▶パネルディスカッション
- ▶情報交流会



▲道路管理者とのパネルディスカッション

北海道

08 北海道フォーラム in 旭川

～S I P地域実装による地方のインフラ・アセットマネジメントを考える～

「S I P地域実装チームの活動実績と地域との共生」についての講演と、「社会インフラ維持管理の課題とマネジメント」や「モバイルプロフィロメータを利用した路面点検」、「2輪型マルチコプタを用いた橋梁点検」「地域が自ら支える水インフラ維持管理」についての研究活動報告が行われました。

<日時・場所>

平成31年3月4日(金) 13:00～17:00 星野リゾート OM07 旭川

<参加者>

約110名

<プログラム>

- ▶開会挨拶
- ▶S I P講演・報告(基調講演)
- ▶研究活動報告 / 北海道フォーラム報告「インフラメンテナンス国民会議北海道フォーラムの取り組み」
- ▶閉会



▲S I Pグループと北海道フォーラムとの引継式

東北フォーラム

東北フォーラムは、インフラを良好な状態で持続的に活用することを目指し、平成30年4月27日に設立されました。産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、活動してまいります。



リーダー 石川 雅美

東北学院大学工学部 教授

東北

01 設立フォーラム

東北フォーラムのキックオフイベントを開催しました。

東北フォーラム設立の背景、体制、事業計画等の報告の後、この活動に協力や支援していただく学識者や支援団体、実施の主体となる企画委員が紹介されました。フォーラム終了後には、「事例を参考にして取り組みたい」、「会員を増やしたい」などの意見が聞かれました。

<日時・場所>

平成30年8月21日(火) 東北地方整備局 12階大会議室

<参加者>

約160名(学識者、地方自治体、建設会社、コンサルタント、整備局等)

<プログラム>

- ▶挨拶
- ▶インフラメンテナンス国民会議「東北フォーラム」について
- ▶東北におけるインフラ・メンテナンスの取り組み体制と国民会議への期待
- ▶「橋のセルフメンテナンスふくしまモデル」の構築と実践



▲フォーラムの様子

東北

02 第1回マッチングイベント

～企業等からのノウハウを活用し、会員自治体を支援～

東北の自治体会員が抱えるインフラに関する課題解決のために、企業会員からの技術やノウハウ等の提案とのマッチングイベントを開催しました。また、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)による技術紹介もありました。

<日時・場所>

平成31年2月4日(月) 東北地方整備局 13階水災害予報センター

<参加者>

約70名(行政会員、団体会員、企業会員等)

<プログラム>

- ▶自治体会員から現状の紹介
- ▶企業会員からの情報の紹介
- ▶課題の解決策等を全体で議論
- ▶解決策や残された課題を共有



▲イベントの様子

東北

03 第1回マッチングイベント

～企業等からのノウハウを活用し、会員自治体を支援～

人口減少下において地域の生活と産業を支える多様なインフラを効果的・合理的、かつ安全に管理していくことは喫緊の課題です。そこで、本講習会ではインフラ維持管理に関する近年の動向について話題提供するとともに、地域のインフラ維持管理のあり方やその人材育成について意見交換をしました。

<日時・場所>

平成31年2月26日(火) 県民福祉プラザ 県民ホール

<参加者>

約70名(行政会員、団体会員、企業会員等)

<プログラム>

- ▶開会挨拶および八戸工業大学研究ブランディング事業の紹介
- ▶戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)プロジェクトの成果と今後
- ▶東北インフラ・マネジメント・プラットフォームの展開
- ▶インフラメンテナンス国民会議 東北フォーラムの取り組み
- ▶「橋のセルフメンテナンスふくしまモデル」の構築と実践
- ▶パネルディスカッション：青森におけるインフラ維持管理と人材育成
- ▶閉会挨拶



▲講習会の様子

2.2.3

関東地方フォーラム

インフラメンテナンスに関する地方公共団体及び産業等の育成・活性化を支援し、インフラメンテナンス国民会議の取り組みを地方レベルで推進させることを目的として、関東地方フォーラムを平成30年3月29日に設立しました。



リーダー 村越 潤
首都大学東京

関東

01 関東地方 プレフォーラム（仮称）

橋梁のモニタリング技術についての開発者シーズと自治体ニーズのマッチングイベント

本イベントは、「社会インフラへのモニタリング技術の活用推進に関する技術研究開発に係る公募」で採択された6つのモニタリング技術について、施設管理者と開発者がマッチングを試行し、各モニタリング技術の社会実装の推進を図るとともに、関東地方フォーラム(仮称)の今後の在り方を模索するものです。

<日時・場所>

平成30年2月15日(木) さいたま新都心合同庁舎2号館14階 災害対策本部室

<参加者>

37名(施設管理者、開発者、進行者、事務局)

<プログラム>

- ▶開会挨拶
- ▶開発者によるモニタリング技術の説明
- ▶グループ討議(50分×3ラウンド)
- ▶討議結果のプレゼンテーション(5分×6技術)
- ▶閉会の挨拶



▲プレゼンテーションの様子

関東

02 第1回 関東地方フォーラム イベント

社会インフラの維持管理・更新に関する自治体の課題に対し「課題の深掘り」を行いました。また、インフラメンテナンスに関するベストプラクティスを水平展開するため事例紹介を行いました。

ワークショップではテーマを橋梁の点検効率化にむけた課題整理として、3班に分かれてグループ討議を行い、課題の深掘を行いました。

<日時・場所>

平成30年11月9日(金)中央合同庁舎2号館国土交通省第2会議室A・B

<参加者>

11名(地方自治体)

<プログラム>

- ▶挨拶
- ▶インフラメンテナンス国民会議について
- ▶事例紹介(橋梁モニタリング技術の現場試行状況)
- ▶ワークショップ
- ▶講評



▲ワークショップの様子

関東

03 第2回 関東地方フォーラム イベント

社会インフラの維持管理・更新に関する課題に対して、産学官民が有する技術や知恵を総動員する「インフラメンテナンス国民会議」の仕組みを地方レベルで展開する「関東地方フォーラム」を設立しました。

インフラメンテナンス国民会議関東地方フォーラムは、第2回フォーラムイベントとして、平成31年1月11日～25日に募集した「橋梁の点検効率化に資する技術」を紹介する「ピッチイベント」を開催しました。

<日時・場所>

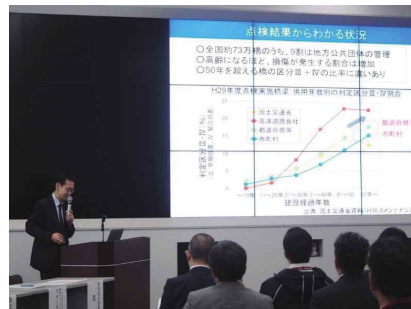
平成31年2月18日(月)さいたま新都心合同庁舎2号館14階 災害対策本部室

<参加者>

自治体20団体30名(今回は自治体限定)、発表者:10団体

<プログラム>

- ▶挨拶
- ▶特別講演
- ▶ワークショップ
- ▶講評
- ▶橋梁の点検効率化に資する技術について
- ▶個別相談
- ▶講評



▲村越教授による特別講演

北陸 インフラメンテナンスフォーラム

インフラメンテナンスに関わる様々な議論を進める場として、北陸インフラメンテナンスフォーラムを平成30年3月26日に設立しております。



リーダー 丸山 久一

長岡技術科学大学 名誉教授

北 陸

01

北陸インフラメンテナンスフォーラム

新潟、富山、石川北陸3県の産官学の技術者が一同に集い、インフラメンテナンスにかかる諸課題の解決に向けた活動をはじめました。具体的には、自治体支援、新技術・新工法の情報共有、技術相談などに取り組んでいきます。

<日時・場所>

平成30年10月10日(水) 新潟県自治会館

<参加者>

274名

<プログラム>

- ▶ 基調講演：「人材育成における大学の役割」
「インフラ維持管理の効率化とその横展開について」
- ▶ パネルディスカッション：管内自治体から話題提供
- ▶ まとめ・今後の期待



▲ パネルディスカッションの様子

北 陸

02

建設技術研修会

「攻めるインフラメンテナンスーセカンドステージへー」をテーマとして、持続可能なインフラマネジメントの実現性を高める新たな知見を習得するとともに、今後目指すべきインフラメンテナンスのあり方などに関する知識の向上を図っています。

<日時・場所>

平成30年11月29日(木) 富山国際会議場3階メインホール

<参加者>

181名

<プログラム>

- ▶ 基調講演：「インフラ高齢化と対峙する」
- ▶ パネルディスカッション：「インフラメンテナンスに挑む一産学官の視点から」



▲ 基調講演の様子

北 陸

03

第2回 北陸インフラメンテナンスフォーラム

～ニーズの深掘り & シーズの種まき～

産・官・学・民の様々な立場からのインフラメンテナンスにかかる意見やアンケート調査をふまえ多くの課題や解決策が求められています。特に、今年度は、道路橋梁を対象とした5年の法定点検の完了をふまえ、次期点検の改善に向けた要請が産官ともに高まっている状況となっています。本フォーラムは、「橋梁点検を効率化する技術」を対象に「ニーズの深掘りとシーズの種まき」に向けた取り組みを行っていきます。

<日時・場所>

平成31年2月12日(火) 金沢河川国道事務所 2階会議室

<プログラム>

- ▶ 開会挨拶
- ▶ 橋梁点検を効率化する技術紹介セミナー
- ▶ 橋梁点検効率化技術ニーズの深掘りとシーズの種まき(意見交換)
- ▶ 講評



▲ ニーズの深掘りとシーズ種まきの様子

2.2.5

中部フォーラム

中部フォーラムは民間主体の事務局として平成30年1月26日に設立し、中部地方の自治体が管理する主として土木インフラについて、メンテナンスサイクルの確実な実施に向けて支援いたします。



リーダー 原田 和樹

玉野総合コンサルタント

中 部

01

中部フォーラム 第1回会議(発足会議)

インフラメンテナンス国民会議は、社会インフラを良好な状態で持続的に活用するために、産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、平成28年11月28日に設立されました。

中部フォーラムでは、インフラメンテナンス国民会議の地方組織として、自治体のインフラメンテナンスの確実な展開に向けて、自治体支援のための各種取り組み(講習会・マッチングイベントの開催、革新的技術の社会実装、メンテナンスサイクルの支援伴走)を開始します。

<日時・場所>

平成30年2月21日(水) 13:00～16:35 名古屋国際会議場(224会議室)

<参 加 者>

約60名(自治体・道路管理者約20名、一般企業等約40名、報道機関3社)

<プログラム>

- ▶ 開会挨拶
- ▶ インフラメンテナンス国民会議及び中部フォーラムの概要について
- ▶ 講演 / 特別講演
- ▶ 自治体における土木インフラ維持管理に関する先進的な取り組み事例等の紹介
- ▶ パネルディスカッション
- ▶ 閉会挨拶



▲ パネルディスカッションの様子

中部

02 中部フォーラム 第2回会議

「インフラ維持管理 その課題と包括的民間委託」をテーマとして、「道路インフラの維持管理の効率化・高度化への考え方」や「包括的民間委託」について、討議しました。

<日時・場所>

平成 30 年 7 月 23 日(月) ウィンクあいち

<参 加 者>

約 170 名(概略内訳：行政 85、民間 70、報道 3、発表登壇者・来賓 12)



▲ 発表の様子

中部

03 中部フォーラム 第3回会議

効率的にインフラ維持管理を行うために有効な新技術の実装に向けて、岐阜大学 SIP 地域実装の取り組み、立場ごとの新技術実装への障害・原因、課題と対策例、新技術導入シナリオ等についての講演が行われました。

「効率的な市町村管理への知恵と工夫」と題して討論会を行いました。各市の実情と課題について、専門家集団である施工総研、民からの支援の実例と可能性について活発な討論が行われました。

<日時・場所>

平成 30 年 10 月 25 日(木) 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

<参 加 者>

約 180 名(概略内訳：行政 80、民間 90、報道 2、登壇者・来賓 10)

<プログラム>

- ▶ 講演会：「効率的な維持管理・更新に関する先進事例」
- ▶ 基調講演
- ▶ パネルディスカッション



▲ パネルディスカッションの様子

近畿 本部フォーラム

平成 28 年 12 月 15 日に設立し、平成 29 年 1 月の第 1 回フォーラムの開催を皮切りに、平成 30 年 3 月末までにフォーラム 4 回開催、ピッチイベントを 2 回開催しました。さらに、現地見学会を 1 回、実証実験を 2 回開催し、これらの延べ参加人数は、施設管理者 210 名、民間企業等 516 名となりました。



リーダー 片岡 信之

一般社団法人 国土政策研究会 関西支部

近 畿

01

近畿本部フォーラム現地見学会 滋賀県 ×(株)クボタ

7 月 28 日に開催された「近畿本部フォーラム第 1 回ピッチイベント」でのプレゼンなどを経て滋賀県のニーズ(課題)と(株)クボタのシーズ(技術)のマッチングが成立しました。

滋賀県が管理する下水圧送管路において当技術の調査手法について現地見学会を実施しました。

<日時・場所>

平成 30 年 3 月 1 日(木) 滋賀県高島市マキノ町知内地先

<参 加 者>

行政等(80 名)、民間企業等(11 名)、事務局等(16 名) 合計 107 名

<プログラム>

- ▶ 調査技術の概要
- ▶ 現地見学会での確認



▲ 見学会の様子

近 畿

02

近畿本部フォーラム 実証実験

～大阪市 ×(株)シーエス・インスペクター、アス・プランテック(株)～

橋梁等の化粧類内部における現場点検時の支障物(鳥の巣、糞害、滞水等)の除去技術が求められる中、橋梁メンテナンス用掃除機「スイートル」(実証実験実施者：(株)シーエス・インスペクター)と、「キュームブラスト機」(実証実験実施者：アス・プランテック(株))を用いた清掃及び予防の実証実験が行われました。

<日時・場所>

平成 30 年 3 月 23 日(金) 阪神高速技術(株) 阿倍野事業所内(大阪市西成区山王 1-16-2)

<参 加 者>

35 名

(地方自治体 4 名、民間企業 13 名、実験実施者 6 名、事務局 7 名、国土交通省 4 名、メンター 1 名)



▲ 実証実験の様子

03 第5回フォーラム

施設管理者が抱える維持管理の課題（4テーマ）について班別討議を行いました。班別討議では、民間企業が有する技術についての情報提供や自治体の抱える課題解決に向けて、活発な情報・意見交換が行われました。

<日時・場所>

平成30年7月3日（火）

<参加者>

65名（地方自治体14名、民間企業等32名、事務局13名、国土交通省5名、メンター1名）

<プログラム>

（テーマ）

- ▶ 道路付属物（標識柱等）鋼製支柱の土中部の点検を支援する技術
- ▶ 河道・堤防の効率的な点検・診断を行う技術
- ▶ 水路クラックの簡易補修を支援する技術
- ▶ 橋梁やトンネル等の構造物点検に際し、継続的に整合が取れた点検を可能とする技術



▲ フォーラムの様子

04 近畿本部フォーラム 実証実験

～滋賀県 × 内外構造（株）、（株）日立産業制御ソリューションズ～

桁下が狭隘で点検員による近接目視が不可という状況で、橋梁の近接目視点検を支援する技術、または打音検査を支援する技術が求められる中、橋梁の近接目視点検を支援するカメラ技術等の活用について、内外構造（株）と、（株）日立産業制御ソリューションズより実証実験が行われました。

<日時・場所>

平成30年7月27日（金）滋賀県守山市勝部三丁目地先

<参加者>

57名

（地方自治体等13名、民間企業21名、実験実施者8名、事務局10名、国土交通省4名、メンター：1名（近畿情報ワーキング長）



▲ 実証実験の様子

近畿

05 第3回ピッチイベント

今回のピッチイベントでは、平成30年7月3日に開催した第5回フォーラムで取り上げた4テーマ(課題)に対し、民間企業者が保有するシーズ技術の募集に応募があった技術について、12の民間企業者等からプレゼンテーションが行われました。

今後、プレゼンテーションされた技術の中から、施設管理者のニーズに適應する可能性の高い技術について、実用化を検証するフィールド(実証)実験の実施に向けて調整を行う予定です。

<日時・場所>

平成30年8月23日(木) 花博記念公園鶴見緑地 ハナミズキホール

<参加者>

114名(地方自治体13名、民間企業等78名、事務局13名、国土交通省9名、メンター1名)



▲ピッチイベントの様子

近畿

06 第6回フォーラム

施設管理者が抱える維持管理の課題(5テーマ)について班別討議を行いました。班別討議では、課題解決に向けて、民間企業が有する技術についての情報提供や意見交換が活発に行われました。

<日時・場所>

平成30年8月24日(金) 花博記念公園鶴見緑地 ハナミズキホール 水の館ホール付属展示場

<参加者>

74名

(地方自治体13名、民間企業等40名、事務局等15名、国土交通省5名、メンター1名)



▲フォーラムの様子

近畿

07 近畿本部フォーラム 実証実験 ～大阪市 × ドライ工法協会～

常時水没している構造物の点検の効率化技術(水中部での目視点検を支援する技術)が求められる中で、ドライ工法協会(代表者:深田サルベージ建設(株))の「ドライ工法(ドライボックスを設置して陸上と同等の作業環境を構築した上での点検及び損傷箇所の補修)」の実証実験が行われました。

<日時・場所>

平成30年9月27日(木) 大阪市港区海岸通四丁目 大阪港 第3突堤先端物揚場

<参加者>

85名

(行政等29名、民間企業等14名、実験実施者30名、事務局7名、国土交通省4名、メンター1名)



▲実証実験の様子

近畿

08 第4回ピッチイベント

今回のピッチイベントでは、平成30年8月24日に開催した第6回フォーラムで討議したテーマ(課題)に対し、民間企業者が保有するシーズ技術の募集に応募があった民間企業者から、技術のプレゼンテーションが行われました。今後は、プレゼンテーションされた技術の施設管理者のニーズに適応する可能性が高いと判断された場合に、実用化の可能性を検証する実証実験の実施に向けた調整を行うことを報告しました。

<日時・場所>

平成30年10月25日(木) 建設技術展2018近畿 イドームおおさか 8階 第3会議室

<参加者>

128名(地方自治体17名、民間企業等90名、メンター1名、国土交通省7名、事務局13名)

<プログラム>

- ▶ 来賓挨拶
- ▶ 特別講演:「インフラメンテナンスに関する新しい分野の新技术の適応・可能性について」
- ▶ 奈良県/大阪府港湾局の課題(ニーズ)に対して実施した実証実験結果報告
- ▶ 総評



▲ プレゼンテーションの様子

近畿

09 近畿本部フォーラム 実証実験

～京都府 × 岡山大学～

道路付属物(標識柱等の鋼製支柱)の土中部の点検を支援する技術が求められる中で、磁気センサを用いた鉄鋼構造物の非破壊検査(腐食減肉検査)の実証実験が行われました。

検証内容としては、道路付属物(標識中等の鋼製支柱)の土中部の点検を支援する技術として、磁気センサによる地際下腐食検査(非破壊検査)を垂鉛メッキ鋼管2箇所に対して行いました。過去に、2箇所とも掘削による路面境界部の確認を行っています。

また、掘削による点検判定と、今回の非破壊検査による分析結果について、整合性を検証しました。



▲ 実証実験の様子

<日時・場所>

平成30年12月7日(金) 京都府相楽郡南山城村北大河原北垣内付近

<参加者>

46名

(行政12名、民間企業15名、実験実施者7名、事務局9名、国土交通省2名、メンター1名)

近畿本部フォーラム 実証実験

国道 176 号坂浦トンネル、国道 176 号与謝トンネル、国道 176 号宮津トンネル及び国道 178 号栗田トンネルにおいて、カラーラインセンサーカメラによる高精細な可視画像撮影システムと光切断法による 3 次元形状計測システムを搭載した車両「スマートイーグル type-T」(NETIS 登録番号：SK-160013-A)により、トンネル覆工コンクリートの表面状態と形状を同時に計測しました。

今後、その計測データを基に、覆工コンクリートのひびわれと剥離の前兆の可能性のある段差を検出し、コンクリート片が剥落する恐れのある箇所を非接触かつ定量的に検出を行う予定です。

< 日 時 >

平成 31 年 2 月 26 日(火) 8:30 ~ 15:00

< 場 所 >

国道 176 号 坂浦トンネル 与謝トンネル、宮津トンネル

国道 178 号 栗田トンネル

<施設管理者>

京都府

求める技術：トンネル等の点検に際し、継続的に整合が取れた点検を可能とする技術

<実証実験実施者>

西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社

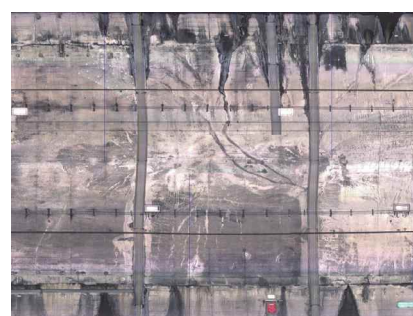
可視画像撮影及び 3 次元形状計測システムを搭載した車両によるトンネル覆工面調査技術

<技術の特徴>

- ▶ カラーラインセンサーカメラを用いて高精細なトンネル覆工画像を作成し、正確にひび割れなどの損傷を把握する。
- ▶ 光切断法による高精度の 3 次元形状計測を行い、可視画像では把握できない覆工コンクリートの剥離の前兆であるコンクリート表面の段差を捉えることで剥落危険箇所を特定する。
- ▶ 形状計測データを画像化し、コンクリート表面の段差を定量化し、凹凸の範囲を自動抽出する。
- ▶ 可視画像による損傷進行と、段差の増加を定期的に取り得ることで、トンネルの劣化進行を定量的に評価できる可能性がある。



▲ 計測状況(前方)



▲ 可視画像(与謝トンネル)



▲ 可視画像撮影及び 3 次元形状計測システムを搭載した車両

2.2.7

「ちゅうごく」(中国フォーラム)

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」は、中国地方5県を対象エリアとして、平成30年3月27日に設立しました。



リーダー 藤井 堅

広島大学大学院 特任教授

中国

01 「ちゅうごく」の発足会議

中国地方の会員が知識・人材の交流を深め解決策を見出す場としてインフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」が設立されたことから、発足会議を開催しました。

<日時・場所>

平成30年6月28日(木)広島合同庁舎4号館附属棟 海技試験場

<プログラム>

- ▶挨拶
- ▶国民会議の概要説明
- ▶インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」の概要説明
- ▶講演 ①「市民が護るインフラのメンテナンス」
②「産官学で取り組む『岡山工業高校道路パトロール隊』活動報告」



▲発足会議の様子

中国

02 建設技術フォーラム 2018in 広島

建設技術フォーラムは、多発する自然災害への対応や、安全で安心して生活できる地域づくりを支えるための新しい建設技術など、中国地方の社会資本整備を支える新技術を一同に集め、各団体の展示・セミナー発表等により紹介するものであり、昭和63年から続いているイベントとなっています。今年は「安全・安心で豊かな地域づくりを支える建設技術～『i-Construction』の進展と新技術で取り組む地域の防災・減災対策、老朽化対策～」をテーマとして開催しました。

<日時・場所>

平成30年11月1日(木)・2日(金)広島産業会館東棟(広島市南区)

<参加者>

約2,000名(一般、地公体、民間企業など)



▲展示会の様子

中国

03 第1回ワークショップ

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」では、地方自治体等の施設管理者が抱える施設管理の課題（ニーズ）について、民間企業等を交えた課題解決に向けた討議を行う「第1回ワークショップ」を開催しました。

<日時・場所>

平成31年1月中旬～1月下旬 島根県松江市内または、鳥取県米子市内（調整中）



▲ワークショップの様子

中国

04 第1回ピッチイベント

ピッチイベントは、新技術などについて短いプレゼンテーションを行うものであり、地方自治体が抱える課題解決に繋がる技術の発掘を行い、企業間の連携や社会実装に繋げるとともに、これらの技術を広く共有することを目的としています。

<日時・場所>

平成31年2月27日（水）広島合同庁舎4号館13階共用9号会議室

<プログラム>

- ▶ 橋梁点検を支援する技術
- ▶ 塩害橋梁の塩害進行度の把握技術



▲第1回ピッチイベントの様子

中国

05 第2回ピッチイベント

ピッチイベントは、新技術などについて短いプレゼンテーションを行うものであり、地方自治体が抱える課題解決に繋がる技術の発掘を行い、企業間の連携や社会実装に繋げるとともに、これらの技術を広く共有することを目的としています。

<日時・場所>

平成31年3月4日（月）鳥取県西部総合事務所 本館B棟2階 講堂

<プログラム>

- ▶ 舗装の損傷状況の実態把握
- ▶ 伸縮装置撤去時の騒音対策及び時間短縮



▲第2回ピッチイベントの様子

四国 地方フォーラム

インフラメンテナンス国民会議「四国地方フォーラム」は、四国地方4県の自治体および建設コンサルタントが主体となり、平成29年12月26日に設立しました。



リーダー 矢田部 龍一

愛媛大学防災情報研究センター 特命教授
(愛媛大学名誉教授)

四国

01 第1回 四国地方フォーラム

自治体の課題（ニーズ）に対し、民間企業等が解決策となる技術（シーズ）等を提案し、解決策等を議論しました。

企業側の技術開発の新たな方向性等をオープンイノベーションの手法で議論し、現場デモ等のマッチング調整を行ってきました。また、自治体の課題に対し、他の好事例やノウハウ、知恵やアイデアを紹介し課題解決に向けた方向性などを議論しました。

<日時・場所>

平成30年3月26日(月)高松サポート合同庁舎南官103会議室

<参加者>

官・産・学より約100名



▲プレゼンテーションの様子

四国

02 第1回 四国ピッチイベント

楠本雅博愛媛大学特任教授の基調講演において「沈下橋における鋼管パイルベントの座屈損傷と復旧計画」の発表がありました。

ピッチイベントでは、民間業者4社から「路面陥没等危険要因の対策とデータベース化」に関する最新の技術やノウハウ・シーズ技術の紹介がありました。

<日時・場所>

平成30年11月15日(木)愛媛大学城北キャンパス南加記念ホール

<参加者>

行政、大学、民間企業他

<プログラム>

- ▶ 開会挨拶
- ▶ 基調講演
- ▶ ピッチイベント
- ▶ 閉会挨拶



▲基調講演の様子

九州フォーラム

インフラの維持管理の社会的問題を受けて、九州におけるインフラメンテナンスに関する自治体支援を行う「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」が平成30年1月17日に設立されました。



リーダー 日野 伸一

大分工業高等専門学校 校長

九州

01

九州フォーラム主催キックオフフォーラム

平成30年7月30日に「九州フォーラム」は、今後、産・学・官・民が一つとなってメンテナンスの課題解決に取り組んでいくため、キックオフフォーラムを開催しました。

2名の講演者からはインフラを取り巻く状況や革新的技術開発へ向けた取り組みや、自治体が抱える課題として持続可能なメンテナンスの仕組み構築に向けた取り組みを行っていること等を参加者に共有しました。

パネルディスカッションでは、「自治体の取り組み事例の水平展開」、「行政・民間・市民の連携」、「インフラメンテナンスの理念の普及」などの意見交換により、会場は熱気に包まれ、「九州フォーラム」への期待の声が多く寄せられました。



▲フォーラムの様子

<日時・場所>

平成30年7月30日(月) TKP 博多駅前シティセンターホール A

<参加者>

253名(国・地方自治体62名、民間企業等189名、学校関係者2名)

<プログラム>

- ▶開会挨拶
- ▶基調講演
- ▶特別講演

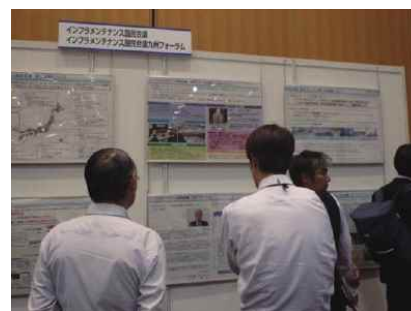
九州

02

九州建設技術フォーラム 2018

平成30年10月9日(火)～10日(水)に、インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムリーダーである日野伸一氏が実行委員長を務める九州建設技術フォーラム2018が「これからのインフラメンテナンス」をテーマに開催されました。

インフラメンテナンス国民会議副会長政策研究大学院大学教授家田仁氏が「インフラメンテナンスの基本的課題とこれから」というテーマで基調講演をされました。また、九州フォーラムでは展示ブースにてパネル展示を行いました。



▲展示ブースの様子

<日時・場所>

平成30年10月9日(火)、10日(水) 福岡国際会議場(福岡市博多区石城町2-1)

<プログラム>

- ▶開会挨拶
- ▶基調講演

03 第1回ピッチイベント

平成31年1月24日に「九州フォーラム」は、自治体のニーズと企業のシーズとのマッチングにより課題解決を図るピッチイベントを初めて開催しました。

第1部では、3自治体（大分市、長洲町、玉名市）からメンテナンスの取り組み状況やニーズの発表、また、企業等から各ニーズに対するシーズの提案が行われました。第2部では、上記3自治体毎に分かれてマッチングに向けたグループ討議が行われ、今後、自治体と企業との間で各現場での実証実験（マッチング）の実施に向けた調整を進めました。

また、課題の共有や新たなニーズの発掘を目的として実施したグループ討議には6自治体が参加し、人材や財源の確保等の課題や、自治体内部でインフラメンテナンスへの機運を高めることの重要性等を共有するとともに、学識経験者からアドバイスをいただきました。



▲ イベントの様子

<日時・場所>

平成31年1月24日（木）第五博多偕成ビル10階会議室

<参加者>

130名（国・地方自治体34名、民間企業等91名、学校関係者5名）

沖縄フォーラム

沖縄フォーラムは、平成30年3月5日に準備会での議論のうえ、3月22日に設立しました。自治体が抱えるインフラメンテナンスの課題を克服するために、産学官民が一丸となって解決に取り組んでまいります。



リーダー **有住 康則**
琉球大学 工学部長

沖縄

01

次世代に安心して繋ぐ社会基盤の創成 ～シビルエンジニアの使命と育成～

土木学会西部支部沖縄会が「次世代に安心して繋ぐ社会基盤の創成～シビルエンジニアの使命と育成～」と題して、講演会を開催しました。

<日時・場所>

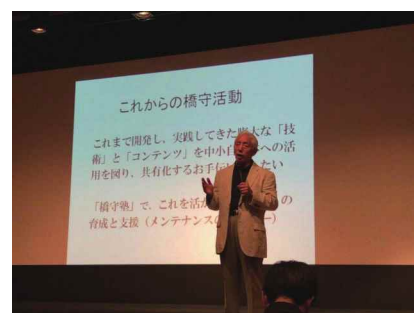
平成30年9月12日(水)沖縄県立博物館・美術館(講堂)

<参加者>

137名

<プログラム>

- ▶ 開会挨拶
- ▶ 講演1 土木 to the Future ～土木技術者の使命～
- ▶ 講演2 地域活動における「橋守」の育成



▲ 講演の様子

沖縄

02

沖縄フォーラム

自治体が抱える課題のうち「メンテナンス技術者の育成」と「効率的な植栽管理」をテーマに、行政(国、県、市町村)の職員、民間コンサルタント等、学識経験者などが集い討議するイベントを開催しました。

<日時・場所>

平成31年2月5日(火)沖縄総合事務局 第2合同庁舎 2階災害対策室

<プログラム>

- ▶ 開会挨拶
- ▶ 現状報告
- ▶ インフラメンテナンス国民会議の全国の動向
- ▶ 講演
- ▶ 班別討議

<内容>

1. 現況報告「沖縄県における維持管理の現状」沖縄県 土木建築部
2. インフラメンテナンス国民会議の全国の動向 実行委員 岩佐 宏一
3. 講演「沖縄における維持管理について～課題と展望～」(仮称)琉球大学工学部
4. 班別討議
 - 【第1班】メンテナンス技術者の人材育成
 - 【第2班】効率的な植栽管理
5. 閉会挨拶



▲ 班別討議の様子

2.3 実行委員会・部会等における活動

2.3.1 交流会

インフラメンテナンス国民会議では、目指すインフラメンテナンスの姿や、各会員が国民会議で実現したい内容を参加した会員間で共有を図るための「交流会」を行っています。

交流会

01

第4回交流会

～インフラメンテナンスを推進する若い力～

平成30年4月25日、インフラメンテナンスに係る若手職員(10～30代)を対象として、人的交流の促進を図る交流会を開催しました。

インフラに関するミニ講義やインフラメンテナンスに携わってきた先輩技術者からの貴重な体験談を聞きながら、将来のインフラメンテナンスやそこで若手が活躍する未来像についてグループディスカッションを行いました。

また、交流会終了後には懇親会を実施し、若手職員と先輩技術者のインフラメンテナンス等に関する意見交換が行われました。



交流会の様子

<日時・場所>

平成30年4月25日(水)

<参加者>

約30名(国民会議会員、広報部会員、国土交通省)

<プログラム>

- ▶ミニ講義①「インフラの役割と理解」
- ▶ミニ講義②「メンテナンスの現場から」
- ▶グループディスカッション

交流会

02

第5回交流会

～地方フォーラム全国交流会～

平成30年12月6日(木)に、「インフラメンテナンス国民会議 第5回交流会 ～地方フォーラム全国交流会～」を同日開催の社会インフラテック2018と同会場内の会議室にて開催しました。

第1部では、広報部会より各地方から集約した情報や規定等について情報提供を行い、その後、各地方フォーラムの取り組み状況や悩み、今後の取り組み予定について共有や質疑応答、情報交換を行いました。

第2部では懇親会形式で、地方フォーラム同士や実行委員会と地方フォーラム間の交流を深めました。



交流会の様子

<日時・場所>

平成30年12月6日(木)東京ビッグサイト東1ホール 商談室3

<参加者>

第1部：41名(実行委員13名、広報部会5名、地方F22名)

第2部：30名(実行委員11名、広報部会5名、地方F14名)

2.3.2 こども霞が関見学デー

「こども霞が関見学デー」とは、国土交通省をはじめとした府省庁等が連携して業務説明や省内見学などを行うことにより、親子の触れ合いを深め子供たちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、府省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的とした取り組みです。

こども霞が関デー

01 平成 30 年度こども霞が関見学デー

国土交通省見学プログラムの一つとしてインフラメンテナンス国民会議から、「アイセイ株式会社」「特殊高所技術株式会社」協力のもと展示を行いました。

両日あわせて約 500 人のこどもたちが展示を楽しみ、保護者のみなさんにインフラメンテナンス国民会議を P R することができました。

<日時・場所>

平成 30 年 8 月 1 日(水)～2 日(木) 10:00～16:00

<参 加 者>

両日あわせて約 500 人のこどもとその父兄

<プログラム>

- ▶ ドローンを用いた点検作業体験(アイセイ株式会社)
飛行型ドローンや地上走行型ドローンを実際に操縦し、F P V(一人称視点の映像)映像をとおして未来の点検を体感しました。
- ▶ V R(ヴァーチャルリアリティ)を用いた特殊高所作業体験(特殊高所技術株式会社)
特殊高所装備を装着して仮設櫓に懸垂し、V Rゴーグルをとおして高所からの景観を体験し、「子ども特殊高所技術者証」が授与されました。



ドローンを用いた点検作業体験



V Rを用いた特殊高所作業体験

2.3.3 革新的技術フォーラム

革新的技術の開発とその社会実装を実現するため、国民会議の取り組みのあり方について模索を続けてきました。会員自治体の課題や会員企業等の有する技術・サービスを技術マップに整理、重点テーマを選び、ニーズ解決型のメンテソリューション[※]やセミナー、ピッチイベント等を企画し、現場試行や実証実験などの官民連携等を生み出しています。

今後、これらの取り組みを深化させ、革新的技術の更なる発掘や社会実装(ビジネス化)に結びつけていくため、地方フォーラムを中心に活動の展開を図っていきます。

※ メンテソリューションとは

メンテナンス+ソリューション+マラソン：メンテナンスの課題をオープンイノベーションの手法で解決をめざす取り組みです。

革新的技術

01 「ドローン × インフラメンテナンス」連続セミナー 第1回

～第1回 ドローン関連政策・技術開発動向～

小型無人航空機（ドローン等）によるインフラ点検・診断技術をテーマとして取り上げ、その試行・導入等を支援するための情報交換の場として、セミナーを開催しました。

前半はインフラの点検・診断にドローンを実用化するための政策の動向の紹介を行い、後半はメンターを招き、橋梁点検におけるドローンの試行結果等の発表とともにメンターから意見や助言をいただきました。

最後に発表者と出席者との意見交換が盛況に行われ、発表者や出席者の今後の技術開発や企業連携に向けて有意義な情報交換の場となりました。

<日時・場所>

平成30年5月10日（木）JR品川イーストビル20F（株）日立製作所内 Hall

<参加者>

約260名

<プログラム>

（午前）

- ▶ 開会挨拶
- ▶ 国の動向に関する話題提供
- ▶ 基調講演①インフラメンテナンスの必要性について
- ▶ 基調講演②ドローンの安全な運用に向けて、

（午後）

- ▶ メンター挨拶
- ▶ インフラメンテナンスを実現するドローンサービス基盤
- ▶ インフラ構造物へのアクセスを支援するドローン技術
- ▶ 様々なドローン活用事例、閉会挨拶



▲ セミナーの様子



▲ メンター挨拶

革新的技術

02 「ドローン × インフラメンテナンス」連続セミナー 第2回

～マッチングに向けた自治体の取り組み・課題共有、会員企業の製品・サービス紹介～

インフラメンテナンスでドローンの実用化・普及をさらに進めるために解決すべき課題や改善策を探るために、セミナーを開催しました。

前半は国のドローン活用への将来像や自治体の取り組み事例・課題等の紹介を行った。後半はメンターを招き、自治体の取り組み紹介や基調講演、ピッチイベント参加企業（15社）がドローンの取り組みについてショートプレゼンを行い、メンターから意見や助言をいただきました。

最後に、ピッチイベント参加企業と参加者との情報交換が盛況に行われ、今後の技術開発や企業連携等に向けて有意義な機会となりました。

<日時・場所>

平成30年9月14日（金）中央合同庁舎3号館10階 共用会議室A

<参加者>

約300名

<プログラム>

- ▶ 開会挨拶
- ▶ インフラメンテナンスへのドローン活用の将来像
- ▶ 自治体におけるドローン活用に向けた取り組み事例・課題①
- ▶ メンター挨拶
- ▶ 自治体におけるドローン活用に向けた取り組み事例・課題②
- ▶ 基調講演
- ▶ ピッチイベント
 - ～企業からのドローンに係る製品・サービスの開発状況等の紹介～
- ▶ 閉会挨拶
- ▶ 情報交換会（プログラム終了後）



▲ メンター挨拶



▲ プレゼンテーションの様子

2.3.4 市民参画フォーラム

インフラメンテナンスへの市民参画の具体的な活動に対する支援のあり方について模索を行ってきました。インフラメンテナンスにおける市民参画の具体事例について事例収集を行うとともに、フォーラムメンバーと地域の取り組みの関係者のネットワーク構築を進め、フォーラムメンバーのスキル向上に取り組みました。

今後、優れた取り組みの収集と水平展開に努めるとともに、インフラメンテナンスへの市民参画の推進に向け、地域等における具体的な支援の実践に展開していきます。

市民参画

01 初級ファシリテータ養成講座

インフラメンテナンスに関わる協働の核となるファシリテーターの養成講座を開催しました。ワークショップの進め方やファシリテーターの役割について、基本を理解しました。

<日時・場所>

- 第1回 2018年9月4日(火)12:30～16:30 東京都市大学渋谷サテライトクラス
- 第2回 2018年11月2日(金)13:00～17:00 東京都市大学 渋谷サテライトクラス
- 第3回 2018年12月14日(金)13:00～17:00 東京都市大学 渋谷サテライトクラス
- 第4回 2019年1月26日(土)13:00～17:00 株式会社アイ・エス・エス 東京本社 地下会議室

<参加者>

- 第1回 17名(民間会社:8名、NPO:4名、大学:4名、国交省:1名)

<プログラム>

- ▶ 講師から、「参加のデザイン」「協働コーディネーター・ファシリテーター」「市民参加の8つのはしご」などについて具体的な説明
- ▶ 市民参加の形態として、「形としての市民参加」が多く、「市民の力が生かされる市民参加」までは至っていないという現状を理解
- ▶ グループワークの最初のテーマは「Wish Poem」
- ▶ 二番目のテーマでは、ワークショップやファシリテーターに関する疑問点をチームごとにまとめ



▲ グループワークの様子

■ 国民会議会員の活動紹介

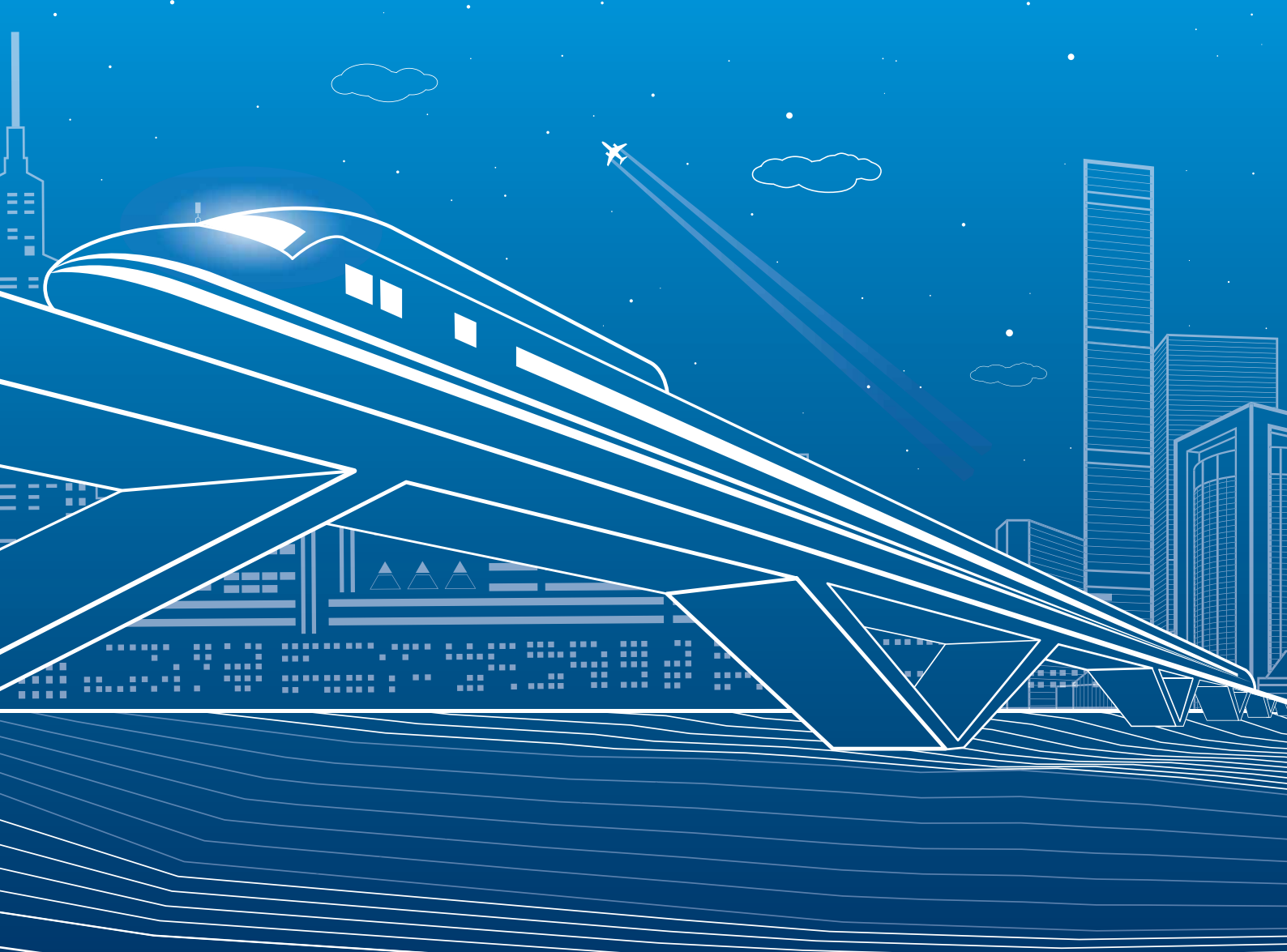
写 真

山崎 エリナ



◆プロフィール

兵庫県神戸市出身・1995年渡仏。フランス・パリを拠点に3年間の写真活動に専念する。40カ国以上を旅して撮影。エッセイを執筆。帰国後、国内外で写真展を多数開催、雑誌、雑誌連載、広告、映像などで活躍。海外での評価も高く、ポーランドの美術館にて作品收藏など幅広い活躍をしている。



インフラメンテナンス国民会議



インフラメンテナンス国民会議（JCIM）事務局

hqt-maintenance-sogo@ml.mlit.go.jp

2019年3月 発行